



業況DIは6.1ポイントの上昇

《総合の業況DIは6.1ポイントと引き続き回復。先行きは不安も、半年後に期待》

～令和3年4・6月期中小企業景気動向調査結果～

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）では、四半期ごとに県内中小企業の景気動向等を把握するため、県内中小企業2,000社を対象とした「中小企業景気動向調査」を実施しています。

令和3年4・6月期の調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

◇要 旨

1. 総合の業況DIは、前期比6.1ポイント上昇の▲44.5となりました。
経営状況では、売上DIは前期比12.6ポイント上昇の▲33.3、また、採算DIは同7.2ポイント上昇の▲36.1となりました。
2. 業種別の業況DIでは、製造業は前期比12.3ポイント上昇の▲36.1となりました。中分類では、一般機械は同5.2ポイント上昇の▲41.5、電気機械は同13.6ポイント上昇の▲31.1、輸送用機械は同18.0ポイント上昇の▲34.5となりました。
建設業の業況DIは、前期比14.8ポイント低下の▲29.1となりました。
商業・サービス業の業況DIは、前期比6.8ポイント上昇の▲53.5となりました。中分類では、卸売業は同6.0ポイント上昇の▲51.0、小売業は同6.8ポイント上昇の▲51.1、飲食店は同4.7ポイント上昇の▲91.4、サービス業は同6.8ポイント上昇の▲39.9となりました。
3. 今後の総合の業況DIを見ると、3か月後は現在比5.8ポイント低下の▲50.3、半年後は同1.4ポイント低下の▲45.9を見込んでいます。
4. 企業からは、製造業では「4月に入って少しずつ受注が増え、この先も予定をもらっている。」「見積り引合い件数が増加しているので、半年後は景気が良く成って来そう。」との声がある一方、飲食店や小売業では「コロナ禍により、昼間はそこそこだが、夜はほとんど客がこない。先が見えないので、今後はどうなっていくのか心配です。半年後くらいには上を向いてほしい。」「長引くコロナの影響で、景気が悪くなりつつある中、今後原料価格の高騰、客数、客売上単価の減少等が予想されるので、先行きが大変不安です。」などの声も聞こえました。

▼本件に関するお問い合わせ先
(公財) 神奈川産業振興センター (KIP)
(Kanagawa Industrial Promotion Center)
総務部総務課 上野
TEL 045-633-5101 FAX 045-633-5018
URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail: kikaku@kipc.or.jp

令和3年4-6月期中小企業景気動向調査結果

業況DIは6.1ポイントの上昇

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の令和3年4-6月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 調査要領

- ・調査時期：令和3年5月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業2,000社
- ・回答数（率）：1,008社（50.4%） ※詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象へ郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）※による分析

※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	352	64.0%
建設業	250	117	46.8%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	539	44.9%
合計	2,000	1,008	50.4%

2. 調査結果

（1）総合

	令和2年		令和3年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
業況DI	▲62.6	▲54.3	▲50.6	▲44.5	▲50.3	▲45.9
売上DI	▲48.5	▲35.1	▲45.9	▲33.3	—	—
採算DI	▲45.8	▲35.7	▲43.3	▲36.1	—	—

総合の業況DIは、前期比6.1ポイント上昇の▲44.5となった。

経営状況では、売上DIは前期比12.6ポイント上昇の▲33.3、また、採算DIは同7.2ポイント上昇の▲36.1となった。

今後の業況DIを見ると、3か月後は現在比5.8ポイント低下の▲50.3、半年後は同1.4ポイント低下の▲45.9を見込んでいる。

（2）業種別特徴

<製造業>

	令和2年		令和3年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
業況DI	▲74.4	▲61.4	▲48.4	▲36.1	▲37.2	▲35.5
売上DI	▲65.2	▲30.2	▲32.2	▲19.6	—	—
採算DI	▲62.2	▲32.5	▲33.5	▲30.8	—	—

製造業の今期の業況DIは、前期比12.3ポイント上昇の▲36.1となった。

経営状況では、売上DIは、前期比12.6ポイント上昇の▲19.6、採算DIは同2.7ポイント上昇の▲30.8となった。

「4月に入って少しずつ受注が増え、この先も予定をもらっている。」「例年1～3月は、引き合いも少なく、予定通りでしたが、4月以降は大口の引き合いも順調に売上に結び付いているので、業績も上向きに向かっていきます。」「新規案件の引き合いは、定期的にあり、むしろ増えてきている。コロナ終息後の量産対応に向け、現在試算提案等で客先との協議を重ねている。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比1.1ポイント低下の▲37.2、半年後は同0.6ポイント上昇の▲35.5を見込んでおり、「主要取引先の休業がなくなったので、これから先の受注に良い影響があると良いなと思っています。」「見積り引合い件数が増加しているので、半年後は景気が良くなってきそう。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況DIは以下の通り。

	令和2年		令和3年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
一般機械	▲80.7	▲67.4	▲46.7	▲41.5	▲37.6	▲32.6
電気機械	▲69.9	▲52.4	▲44.7	▲31.1	▲34.2	▲35.6
輸送用機械	▲74.1	▲61.7	▲52.5	▲34.5	▲38.2	▲40.0
その他	▲73.5	▲62.8	▲50.0	▲35.7	▲38.3	▲35.5

中分類で見ると、一般機械は前期比5.2ポイント上昇の▲41.5、電気機械は同13.6ポイント上昇の▲31.1、輸送用機械は同18.0ポイント上昇の▲34.5となった。

今後の業況DIは、3か月後は一般機械が現在比3.9ポイント上昇の▲37.6、電気機械が同3.1ポイント低下の▲34.2、輸送用機械は同3.7ポイント低下の▲38.2、半年後は一般機械が同8.9ポイント上昇の▲32.6、電気機械が同4.5ポイント低下の▲35.6、輸送用機械は同5.5ポイント低下の▲40.0を見込んでいる。

<建設業>

	令和2年		令和3年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
業況DI	▲24.4	▲22.6	▲14.3	▲29.1	▲39.1	▲41.7
売上DI	▲28.2	▲14.4	▲19.8	▲41.0	—	—
採算DI	▲22.3	▲24.8	▲24.2	▲29.9	—	—

建設業の今期の業況DIは、前期比14.8ポイント低下の▲29.1となった。

経営状況では、売上DIは前期比21.2ポイント低下の▲41.0、採算DIは同5.7ポイント低下の▲29.9となった。

「年度始めなので発注量が少なく非常に厳しい状況が6月ごろまで続く見通しです。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比10.0ポイント低下の▲39.1、半年後は同12.6ポイント低下の▲41.7を見込んでおり、「今後、民間発注工事減が予想され、公共工事に多くの参加者が見込まれ受注環境は大変厳しい。」「4月に入り、公共工事の受注増により利益は確保できるものの、その後は、競争激化により見通せない状況である。」といった声も聞かれた。

<商業・サービス業>

	令和2年		令和3年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
業況DI	▲64.2	▲57.4	▲60.3	▲53.5	▲61.3	▲53.7
売上DI	▲42.3	▲43.3	▲60.7	▲40.6	—	—
採算DI	▲40.7	▲40.6	▲53.9	▲41.0	—	—

商業・サービス業の業況DIは、前期比6.8ポイント上昇の▲53.5となった。

経営状況では、売上DIは前期比20.1ポイント上昇の▲40.6、採算DIは同12.9ポイント上昇の▲41.0となった。「アウトドア関連の商品が好調だが、いつまで続くか不安もある。先が読めない。」「ネット通販は競合が多いが、この状況下でも堅調。実店舗の来店予約制も定着しつつある。」「巣ごもり需要で、花鉢、野菜苗が好調。パーティー自粛で、花束は減少。開店祝いの花束が多く、高単価の物が売れる。」「コロナ禍により、昼間はそこそこだが、夜はほとんど客がこない。先が見えないので、今後はどうなっていくのか心配です。半年後くらいには上を向いてほしい。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比7.8ポイント低下の▲61.3、半年後は同0.2ポイント低下の▲53.7を見込んでいる。「令和3年1月～3月と令和3年4月～6月の比較では、少し良くなっていますが、新型コロナ前との比較では全く駄目で、ワクチン接種後の秋以降に期待しています。」「長引くコロナの影響で、景気が悪くなりつつある中、今後原料価格の高騰、客数、客売上単価の減少等が予想されるので、先行きが大変不安です。」「高齢のお客様が多いので、来店周期が延びています。営業も予約制になり、終業時間も16時30分ですので、好転はずっと先になると思います。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の各々の業況DIは以下の通り。

	令和2年		令和3年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
卸売業	▲66.7	▲64.4	▲57.0	▲51.0	▲64.6	▲55.2
小売業	▲64.6	▲56.5	▲57.9	▲51.1	▲60.6	▲52.9
飲食店	▲81.1	▲67.2	▲96.1	▲91.4	▲84.3	▲75.7
サービス業	▲52.9	▲48.9	▲46.7	▲39.9	▲48.1	▲42.6

業種別では、卸売業は前期比6.0ポイント上昇の▲51.0、小売業は同6.8ポイント上昇の▲51.1、飲食店は同4.7ポイント上昇の▲91.4、サービス業は同6.8ポイント上昇の▲39.9となった。

今後の業況DIは、3か月後では卸売業が現在比13.6ポイント低下の▲64.6、小売業は同9.5ポイント低下の▲60.6、飲食店は同7.1ポイント上昇の▲84.3、サービス業は同8.2ポイント低下の▲48.1、半年後では卸売業が同4.2ポイント低下の▲55.2、小売業は同1.8ポイント低下の▲52.9、飲食店は同15.7ポイント上昇の▲75.7、サービス業は同2.7ポイント低下の▲42.6を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		令和2年		令和3年			
		7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
中規模	業況DI	▲59.3	▲51.7	▲48.2	▲35.8	▲40.6	▲37.5
	売上DI	▲42.5	▲30.6	▲41.2	▲23.8	—	—
	採算DI	▲40.7	▲30.2	▲40.7	▲26.6	—	—
小規模	業況DI	▲66.6	▲57.6	▲53.4	▲54.6	▲61.4	▲55.8
	売上DI	▲55.4	▲40.6	▲51.7	▲44.2	—	—
	採算DI	▲51.8	▲42.5	▲46.3	▲46.9	—	—

規模別の業況DIは、中規模企業は前期比12.4ポイント上昇の▲35.8、小規模企業は同1.2ポイント低下の▲54.6となった。

経営状況では、中規模企業は売上DIが前期比17.4ポイント上昇の▲23.8、採算DIが同14.1ポイント上昇の▲26.6、小規模企業は売上DIが同7.5ポイント上昇の▲44.2、採算DIが同0.6ポイント低下の▲46.9となった。

今後の業況DIについては、中規模企業は3か月後が現在比4.8ポイント低下の▲40.6、半年後が同1.7ポイント低下の▲37.5、小規模企業は3か月後が同6.8ポイント低下の▲61.4、半年後が同1.2ポイント低下の▲55.8を見込んでいる。

(4) 地区別特徴（業況DI）

	令和2年		令和3年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
横浜	▲63.8	▲56.1	▲52.4	▲51.9	▲53.6	▲46.7
川崎	▲55.0	▲46.6	▲40.0	▲35.4	▲52.8	▲43.7
横須賀	▲50.0	▲56.9	▲55.1	▲36.4	▲39.4	▲41.4
平塚	▲63.1	▲67.3	▲61.0	▲52.4	▲54.8	▲54.4
藤沢	▲65.3	▲42.5	▲43.8	▲43.0	▲53.0	▲44.0
相模原	▲68.3	▲64.2	▲46.4	▲40.9	▲44.7	▲48.2
厚木	▲61.1	▲41.7	▲46.9	▲32.2	▲43.2	▲41.4
足柄上・西湘	▲75.5	▲61.2	▲59.8	▲55.1	▲53.8	▲47.6

今期の地区別の業況DIは、

横浜地区（前期比0.5ポイント上昇の▲51.9）、川崎地区（同4.6ポイント上昇の▲35.4）、横須賀地区（同18.7ポイント上昇の▲36.4）、平塚地区（同8.6ポイント上昇の▲52.4）、藤沢地区（同0.8ポイント上昇の▲43.0）、相模原地区（同5.5ポイント上昇の▲40.9）、厚木地区（同14.7ポイント上昇の▲32.2）、足柄上・西湘地区（同4.7ポイント上昇の▲55.1）となり8地区全てで上昇となった。

今後の業況DIは、3か月後は、

横浜地区（現在比1.7ポイント低下の▲53.6）、川崎地区（同17.4ポイント低下の▲52.8）、横須賀地区（同3.0ポイント低下の▲39.4）、平塚地区（同2.4ポイント低下の▲54.8）、藤沢地区（同10.0ポイント低下の▲53.0）、相模原地区（同3.8ポイント低下の▲44.7）、厚木地区（同11.0ポイント低下の▲43.2）、足柄上・西湘地区（同1.3ポイント上昇の▲53.8）となり1地区で上昇し、7地区で低下すると見込んでいる。

半年後は、

横浜地区（現在比5.2ポイント上昇の▲46.7）、川崎地区（同8.3ポイント低下の▲43.7）、横須賀地区（同5.0ポイント低下の▲41.4）、平塚地区（同2.0ポイント低下の▲54.4）、藤沢地区（同1.0ポイント低下の▲44.0）、相模原地区（同7.3ポイント低下の▲48.2）、厚木地区（同9.2ポイント低下の▲41.4）、足柄上・西湘地区（同7.5ポイント上昇の▲47.6）となり2地区で上昇し、6地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部 総務課 上野

TEL:045-633-5101 FAX:045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail:kikaku@kipc.or.jp

景気動向調査 (令和3年4月～6月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		352	117	98	231	71	139	539	1,008
業況判断	現在の業況	▲36.1	▲29.1	▲51.0	▲51.1	▲91.4	▲39.9	▲53.5	▲44.5
	3ヶ月後の業況	▲37.2	▲39.1	▲64.6	▲60.6	▲84.3	▲48.1	▲61.3	▲50.3
	半年後の業況	▲35.5	▲41.7	▲55.2	▲52.9	▲75.7	▲42.6	▲53.7	▲45.9
経営状況	売上	▲19.6	▲41.0	▲29.9	▲41.7	▲67.6	▲32.4	▲40.6	▲33.3
	採算	▲30.8	▲29.9	▲35.8	▲38.6	▲67.6	▲34.8	▲41.0	▲36.1
	引き合い／客数	▲20.9	▲41.7	▲27.1	▲41.3	▲76.1	▲26.8	▲39.6	▲33.3
	単価	▲13.4	▲12.8	▲18.1	▲37.2	▲50.7	▲14.6	▲29.8	▲22.1
	仕入価格	▲55.8	▲37.6	▲51.5	▲35.7	▲42.3	▲26.7	▲37.2	▲43.8
	資金繰り	▲23.6	▲12.0	▲32.3	▲32.0	▲52.1	▲34.6	▲35.4	▲28.5
	残業	▲23.0	▲35.0	▲24.5	▲23.7	▲60.0	▲38.7	▲32.6	▲29.5
	設備稼働	▲19.9	▲23.7	—	—	—	—	—	▲20.9
前期経営実績	売上水準	▲29.3	▲11.1	▲45.9	▲40.7	▲85.9	▲37.4	▲46.8	▲36.5
	利益水準	▲8.0	17.9	▲20.6	▲25.7	▲69.0	▲18.8	▲28.7	▲16.0
	在庫	4.7	0.9	9.5	6.2	7.0	▲1.7	5.1	4.5
	投資	▲14.7	▲8.0	▲21.1	▲13.3	▲38.6	▲12.8	▲18.0	▲15.7
	雇用状況	0.6	▲28.7	▲5.2	▲10.2	9.9	▲4.5	▲5.1	▲5.9

参考＜前回調査＞ 景気動向調査

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		365	126	101	245	77	137	560	1,051
業況判断	現在の業況	▲48.4	▲14.3	▲57.0	▲57.9	▲96.1	▲46.7	▲60.3	▲50.6
	3ヶ月後の業況	▲49.6	▲44.3	▲65.3	▲57.0	▲89.2	▲55.6	▲62.5	▲55.8
	半年後の業況	▲43.2	▲52.0	▲62.6	▲60.3	▲68.5	▲53.4	▲60.1	▲53.3
経営状況	売上	▲32.2	▲19.8	▲55.4	▲62.0	▲92.2	▲44.5	▲60.7	▲45.9
	採算	▲33.5	▲24.2	▲50.5	▲53.5	▲79.2	▲42.5	▲53.9	▲43.3
	引き合い／客数	▲33.8	▲32.8	▲39.0	▲59.0	▲90.9	▲37.0	▲54.5	▲44.7
	単価	▲21.4	▲12.0	▲42.0	▲45.9	▲44.7	▲24.8	▲39.9	▲30.1
	仕入価格	▲36.6	▲24.8	▲28.3	▲29.6	▲18.4	▲20.3	▲25.6	▲29.4
	資金繰り	▲32.5	▲10.4	▲31.0	▲35.1	▲68.8	▲35.6	▲39.1	▲33.4
	残業	▲27.2	▲18.4	▲36.0	▲38.3	▲80.0	▲32.8	▲42.3	▲34.1
	設備稼働	▲27.8	▲19.2	—	—	—	—	—	▲25.7
前期経営実績	売上水準	▲42.7	▲21.4	▲53.0	▲42.4	▲75.3	▲32.8	▲46.5	▲42.2
	利益水準	▲23.3	▲1.6	▲22.2	▲24.5	▲61.0	▲16.8	▲27.2	▲22.8
	在庫	8.1	▲2.7	10.5	4.1	9.1	▲3.4	4.3	4.9
	投資	▲18.0	▲10.9	▲23.2	▲19.4	▲31.2	▲13.8	▲20.5	▲18.5
	雇用状況	3.3	▲35.5	2.1	▲5.8	8.0	▲17.3	▲5.3	▲5.9

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		181	171	58	59	300	239	539	469
業況判断	現在の業況	▲21.5	▲51.5	▲19.0	▲39.0	▲47.7	▲60.8	▲35.8	▲54.6
	3ヶ月後の業況	▲22.8	▲52.7	▲27.6	▲50.9	▲54.1	▲70.4	▲40.6	▲61.4
	半年後の業況	▲24.7	▲47.0	▲37.9	▲45.6	▲45.1	▲64.7	▲37.5	▲55.8
経営状況	売上	▲5.0	▲35.1	▲31.0	▲50.8	▲33.8	▲49.2	▲23.8	▲44.2
	採算	▲16.1	▲46.2	▲19.0	▲40.7	▲34.6	▲48.9	▲26.6	▲46.9
	引き合い／客数	▲5.0	▲37.6	▲32.1	▲50.8	▲33.7	▲47.1	▲23.8	▲44.1
	単価	▲8.3	▲18.8	▲13.8	▲11.9	▲22.9	▲38.6	▲17.0	▲28.0
	仕入価格	▲51.4	▲60.6	▲27.6	▲47.5	▲34.1	▲41.1	▲39.3	▲49.0
	資金繰り	▲13.9	▲33.9	▲12.1	▲11.9	▲29.7	▲42.4	▲22.5	▲35.5
	残業	▲13.3	▲33.3	▲29.3	▲40.7	▲35.6	▲28.8	▲27.3	▲32.0
	設備稼働	▲7.7	▲32.9	▲22.4	▲25.0	—	—	▲11.3	▲31.0
前期経営実績	売上水準	▲17.1	▲42.1	▲6.9	▲15.3	▲41.7	▲53.1	▲29.7	▲44.3
	利益水準	4.4	▲21.1	32.8	3.4	▲21.4	▲38.0	▲6.9	▲26.6
	在庫	7.9	1.2	3.5	▲2.0	7.7	1.7	7.3	1.1
	投資	▲8.9	▲20.7	▲6.9	▲9.3	▲13.4	▲23.7	▲11.1	▲20.9
	雇用状況	1.1	0.0	▲29.3	▲28.1	▲5.4	▲4.8	▲5.8	▲5.9

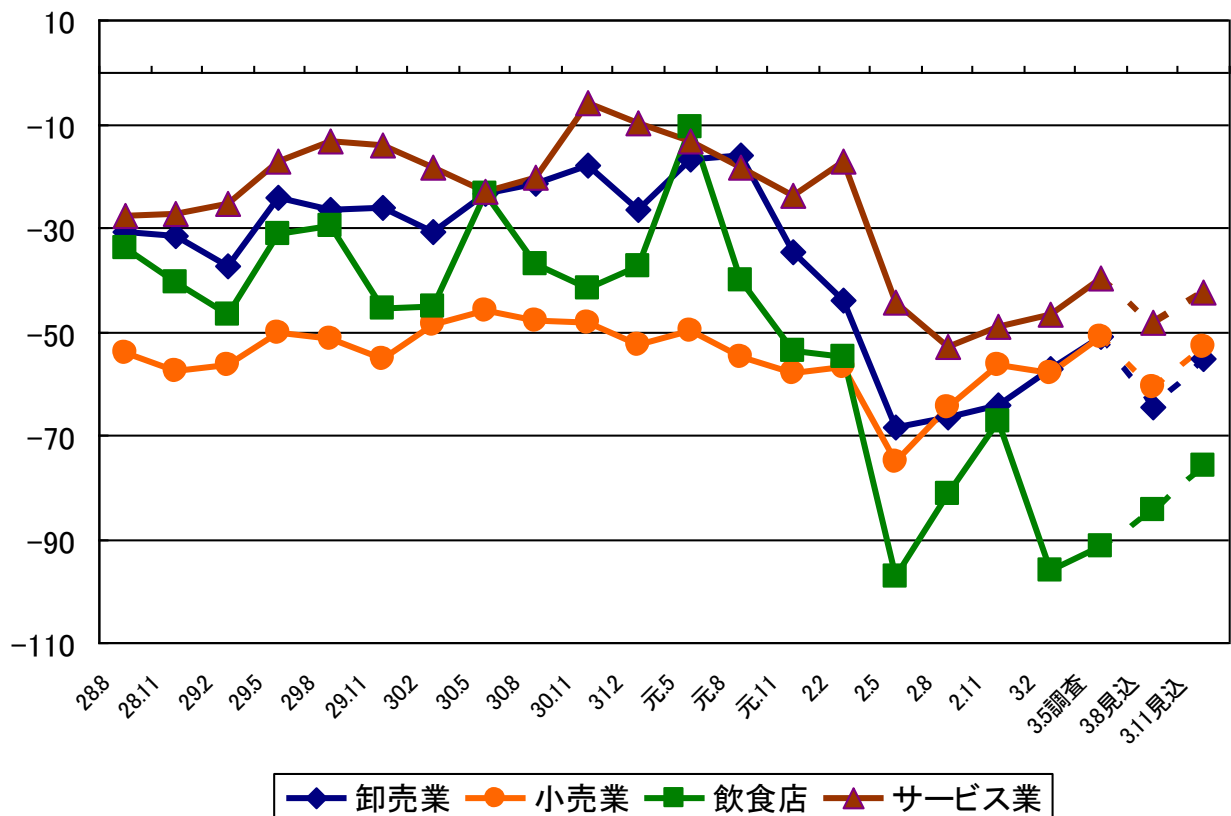
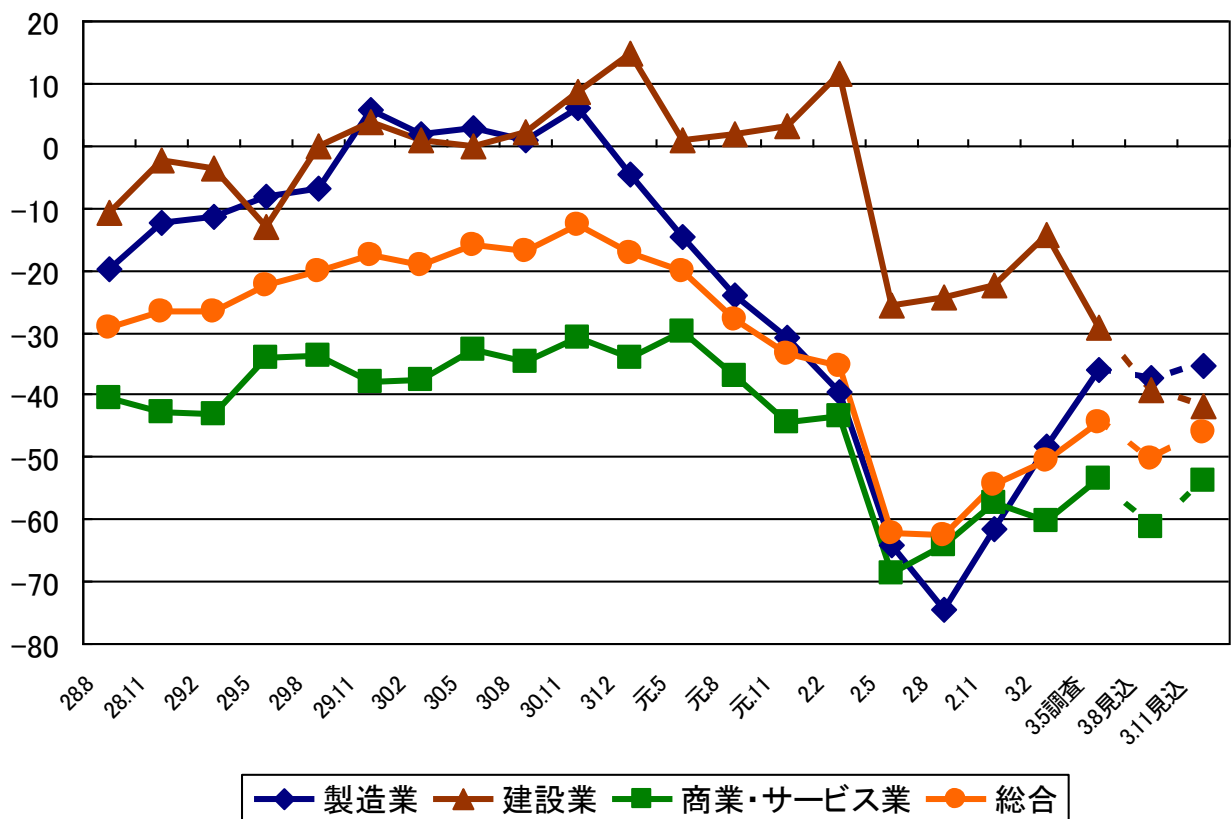
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		263	130	100	105	100	88	115	107	1,008
業況判断	現在の業況	▲51.9	▲35.4	▲36.4	▲52.4	▲43.0	▲40.9	▲32.2	▲55.1	▲44.5
	3ヶ月後の業況	▲53.6	▲52.8	▲39.4	▲54.8	▲53.0	▲44.7	▲43.2	▲53.8	▲50.3
	半年後の業況	▲46.7	▲43.7	▲41.4	▲54.4	▲44.0	▲48.2	▲41.4	▲47.6	▲45.9
経営状況	売上	▲40.8	▲30.8	▲17.0	▲30.5	▲39.0	▲36.4	▲23.5	▲38.7	▲33.3
	採算	▲41.5	▲35.4	▲29.0	▲44.2	▲36.0	▲31.8	▲21.9	▲41.5	▲36.1
	引き合い／客数	▲41.2	▲30.8	▲29.0	▲40.4	▲32.3	▲32.2	▲20.4	▲29.9	▲33.3
	単価	▲27.3	▲16.3	▲21.0	▲25.7	▲20.0	▲17.2	▲20.2	▲21.7	▲22.1
	仕入価格	▲44.7	▲39.5	▲41.4	▲39.0	▲50.0	▲48.9	▲51.3	▲35.8	▲43.8
	資金繰り	▲31.9	▲29.5	▲29.0	▲30.8	▲24.0	▲23.9	▲28.1	▲25.2	▲28.5
	残業	▲33.5	▲26.4	▲28.6	▲30.8	▲21.0	▲31.0	▲28.6	▲30.8	▲29.5
	設備稼働	▲20.8	▲17.2	▲12.2	▲24.5	▲28.2	▲15.2	▲23.4	▲26.2	▲20.9
前期経営実績	売上水準	▲44.9	▲28.5	▲33.0	▲41.0	▲31.0	▲33.0	▲29.6	▲40.2	▲36.5
	利益水準	▲22.9	▲13.1	▲8.1	▲22.1	▲16.0	▲12.5	▲1.7	▲22.4	▲16.0
	在庫	7.3	▲3.3	2.1	8.8	6.3	6.8	0.9	4.8	4.5
	投資	▲16.6	▲17.7	▲3.0	▲16.8	▲19.0	▲17.6	▲19.1	▲13.3	▲15.7
	雇用状況	▲5.8	▲9.5	▲8.2	▲2.9	▲8.0	0.0	▲8.0	▲2.8	▲5.9

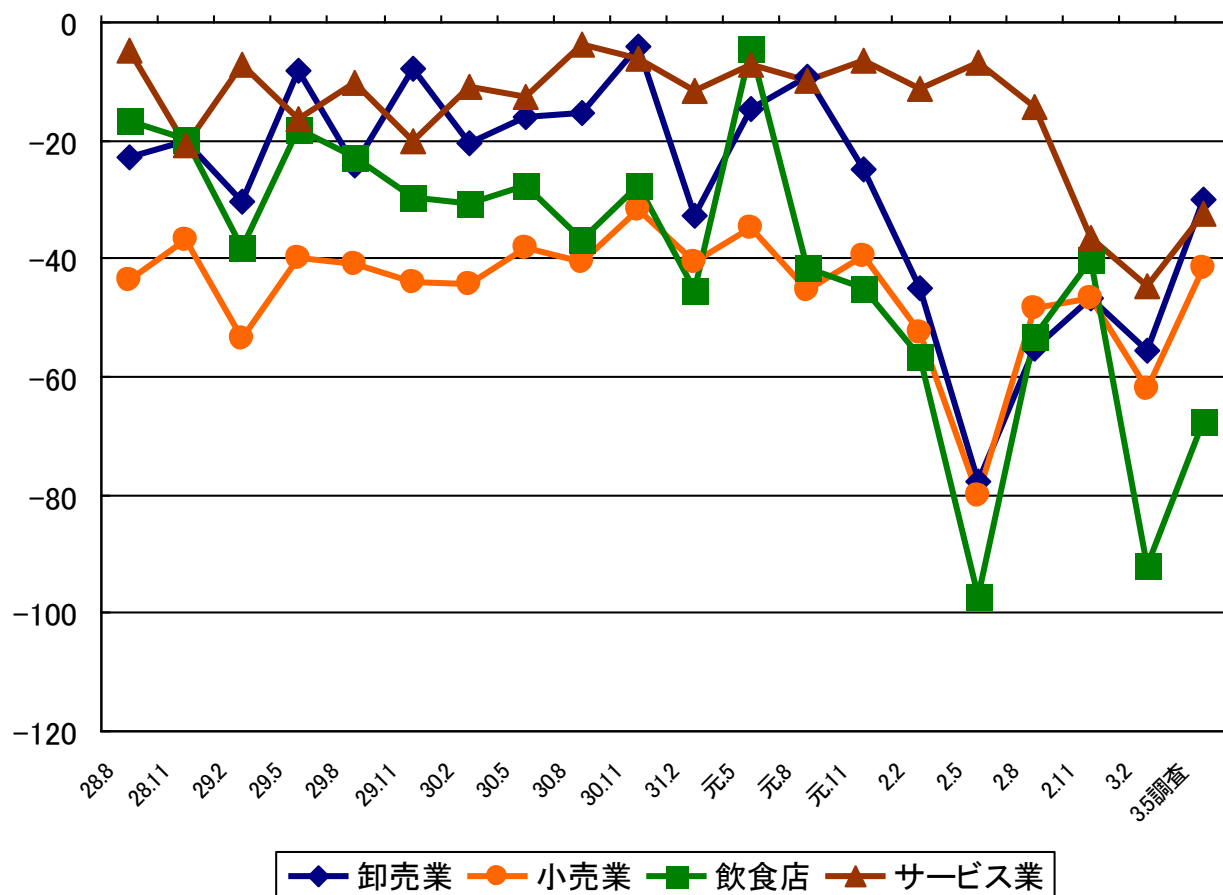
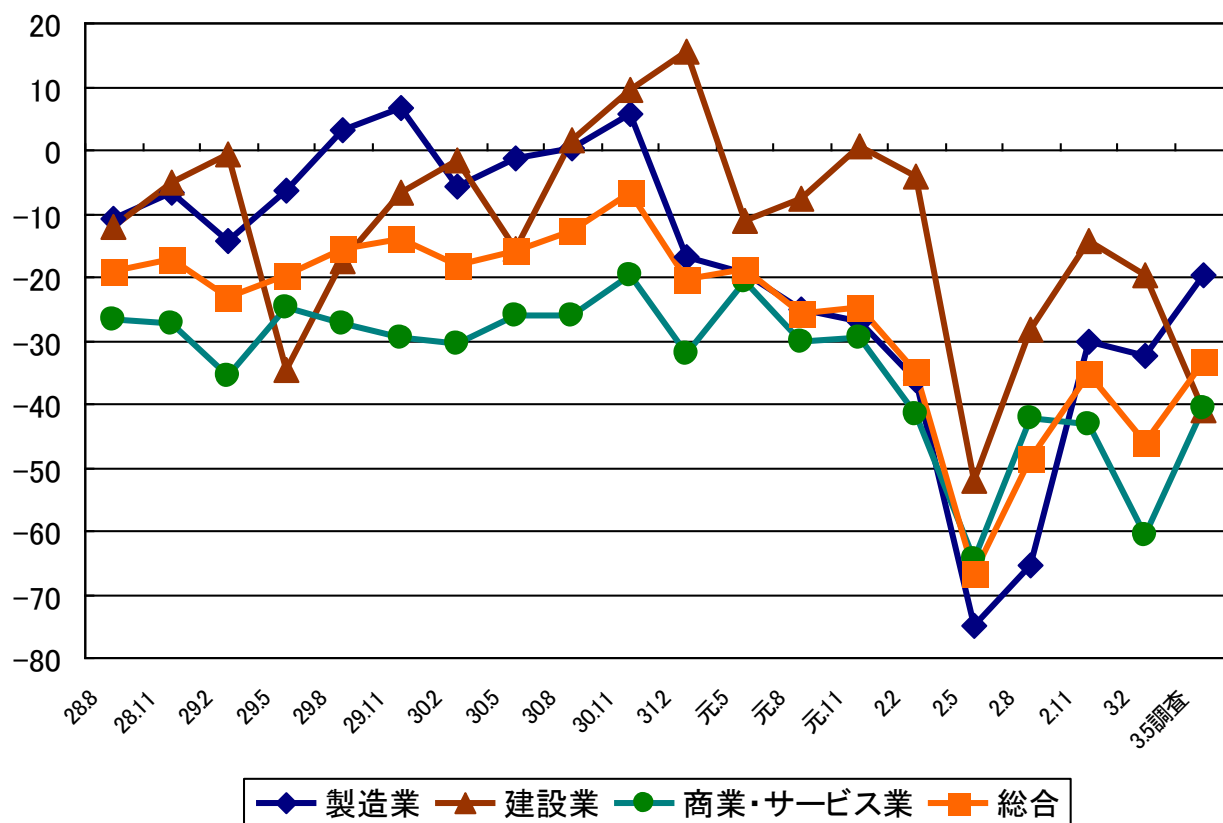
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		94	74	55	129	352
業況判断	現在の業況	▲41.5	▲31.1	▲34.5	▲35.7	▲36.1
	3ヶ月後の業況	▲37.6	▲34.2	▲38.2	▲38.3	▲37.2
	半年後の業況	▲32.6	▲35.6	▲40.0	▲35.5	▲35.5
経営状況	売上	▲28.7	▲10.8	▲27.3	▲14.7	▲19.6
	採算	▲34.0	▲21.6	▲47.3	▲26.6	▲30.8
	引き合い／客数	▲20.4	▲12.2	▲34.5	▲20.3	▲20.9
	単価	▲14.0	▲13.5	▲10.9	▲14.0	▲13.4
	仕入価格	▲50.0	▲62.2	▲61.1	▲54.3	▲55.8
	資金繰り	▲23.4	▲15.1	▲29.1	▲26.4	▲23.6
	残業	▲26.6	▲20.3	▲34.5	▲17.1	▲23.0
	設備稼働	▲20.2	▲16.4	▲34.5	▲15.5	▲19.9
前期経営実績	売上水準	▲31.9	▲28.4	▲27.3	▲28.7	▲29.3
	利益水準	▲16.0	▲10.8	3.6	▲5.4	▲8.0
	在庫	4.5	13.5	▲5.6	3.9	4.7
	投資	▲20.7	▲19.2	▲7.3	▲10.9	▲14.7
	雇用状況	▲3.2	8.1	▲7.5	2.3	0.6

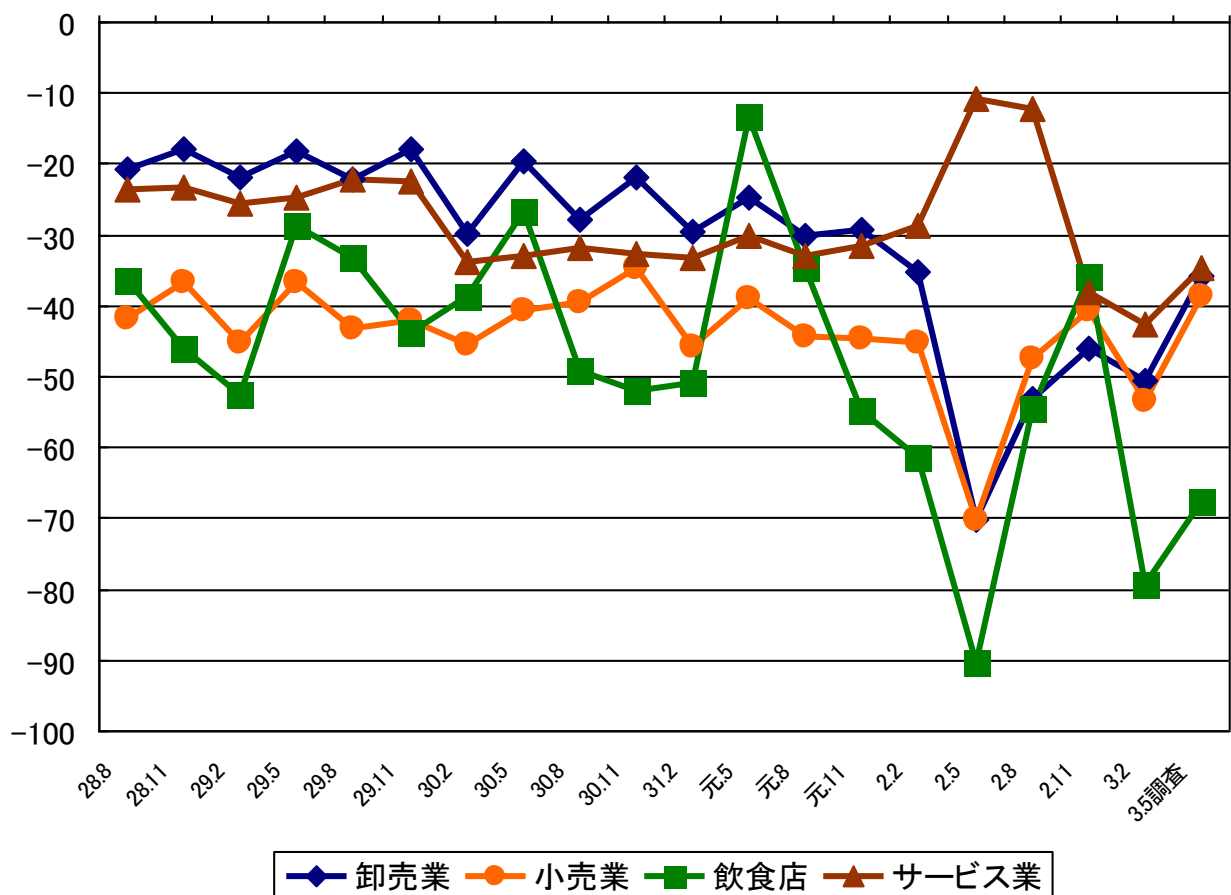
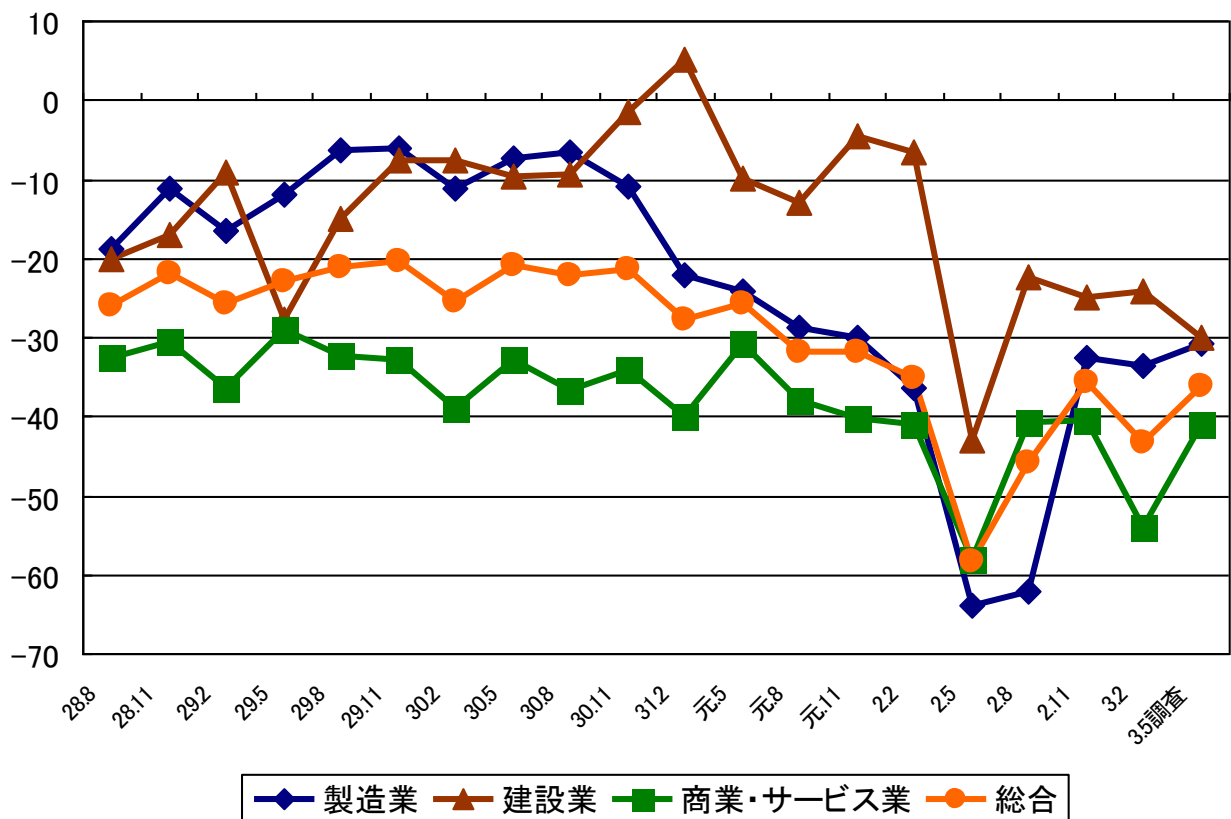
業況DIの推移



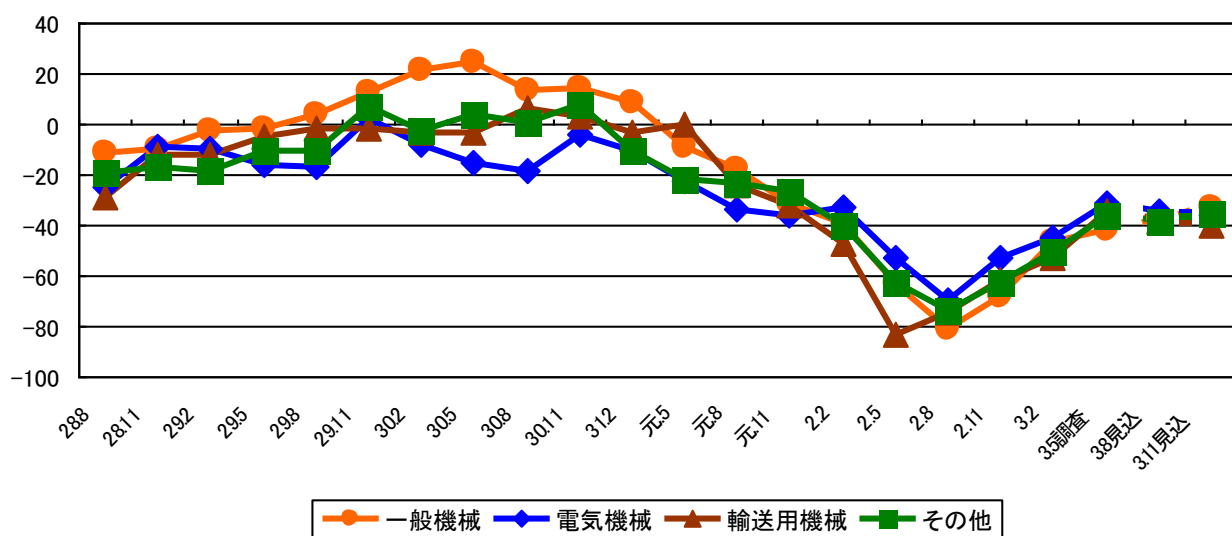
売上DIの推移



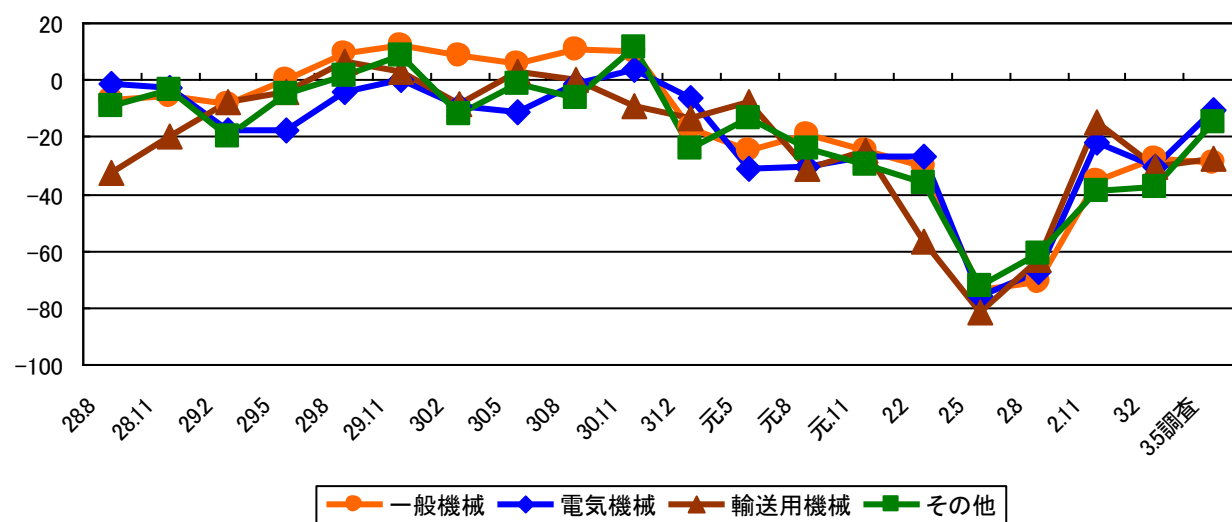
採算DIの推移



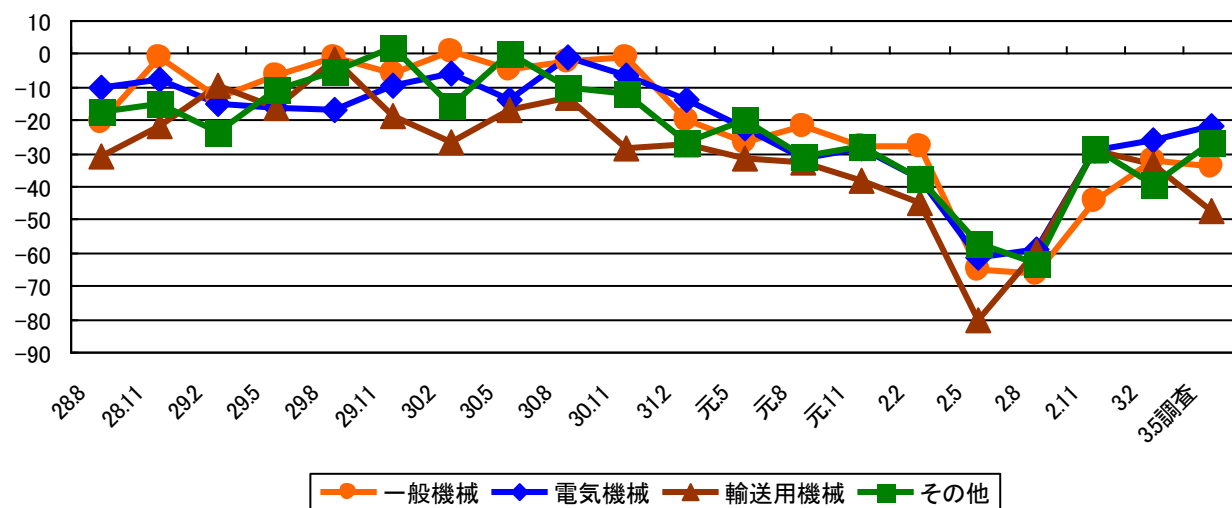
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



<製造業>

「中国関係が好調で、国内は赤字でも利益を出している。」
「コロナ禍の影響と思われる電気部品関係、鋼材関係の値上げ要請並びに、プラスチック製品、ネジ関係が品薄になり、納期回答が得られにくい状況に陥りそうです。お客様にこの状況をきちんと理解してもらう為に、コミュニケーションを強化しております。」
「9月までの上期は、ほぼ好調が期待されますが、10月以降の下期は不透明。特に自動車の販売は、高額化も進みそうで先行きは、不安。」
「コロナ過で遅れていた新規受注が、6月頃より開始となる見込みです。これにより業績の改善を見込んでいます。」
「6月までは、忙しい。他社が手を出さない分野の仕事が増えている。ただ、鉄道・航空会社は減少傾向が見られる。」
「台湾、中国を中心に半導体関連の設備投資が動いている。7月まで受注は確保できているが、8月以降は見えていない。」
「経済が回っている感はなく、まだまだ我慢の時期が続きます。先の見えない状況です。」
「4月、5月は受注が増えた。」
「前期は、昨年度より好調だが4月から受注減、材料費も上がり利益率を圧迫している。先行き不透明。」
「食品容器向け金型は、家飲み需要を反映し受注が継続している。」
「半導体不足により生産台数が減産されているために業績不振となっている。また、プラスチックの原材料の価格の高騰や入手困難な状況により受注残ばかりになり売上げにつながらない。」
「主力の自動車部品向け等は、受注引き合い先が増加しているが、半導体不足と原料価格上昇により先行き不透明。但し引続き積極的な設備投資は行う予定。」
「高齢化による退職に、新人補充が間に合わない。」
「令和2年10月から1月までは、非常に低迷していたが、2月頃より持ち直して現状はトントンといったところ。この先半年位は、不透明な状態が続くそうだが、来年あたりからは再び活発になる予想。」
「コロナによる1回目の緊急事態宣言との比較となるが、やや好調。しかし以降は影響が大きく、今年もこれからの影響は、見通しにくい。」

<建設業>

「公共事業が、激減している（緊急対応の工事位）。元請から受注額が色々な名目でカットされてきている。中小企業は、厳しい状況が続くそう。」
「コロナやオリンピックで止まっていた案件が動き出した。それも年内までで、公共投資が大幅減しているのが気になる。」
「官公庁の受注が減っている為。（今後も良くなると思えない。）」
「元請、建築関係が土地売買の縮小気味で件数減少しつつあります。また、物件が段々小型化しつつあります。」
「定年近い社員が多く、新規採用社員との入替時期にあり2年近くは、人員過剰となる。」
「今年3月までは良かったが、4月以降減っている。」
「民間工事量の減少。コロナ終息の状況が不明で、先の見通しが読めない。」
「コロナ禍の要因により、前年度の受注が減少した影響が現状に出ている。民間工事の引き合い件数は、徐々に増加。今年度の公共事業の発注も出て来ており、楽観視は出来ないが、回復に期待は持てる。」
「経営状況は、4月度の実績なので現状では良く分からないが、工事量の減少は否めない。」
「昨年のコロナ影響による設備投資の減少が今になって影響を受け始めているのではと思う。」

<卸売業>

「自転車、バイク業界は、今の所平年並みに来ているが、明らかに消費者の可処分所得が落ちてきているのを感じる。」
「シーズンに向け売上は上昇していますが、レジャー向けの需要に関しては心配が残ります。輸入品が主なので、円安により若干商品コストが上がっています。」
「4月から、資材原価値上がり。建設業界の新規案件が非常に少ない。受注予測が難しい。秋口からの業状が厳しくなる。」
「建築用の木材不足の影響により、今後3か月～6か月先が不安。」
「鉄素材の値上がりで、受注が止まりました。今後の見通しは、良くないと思われます。」
「外国との取引がいつ回復するか。国内販売も取引先次第。」
「外食産業のお店がお客様なので、新型コロナウイルスの影響で、今年いっぱい厳しい状況が予想されます。早く終息してほしいです。」
「医療機器分野・半導体装置部品が好調。」

<小売業>

「建築業がコロナの影響が大きすぎて売上が50%に落ち込んでいます。今後の見通しが心配です。また商品も高くなってきて不景気になってきています。」
「当店のよう路面での化粧品販売は、ネットやデパートに行けない人（お年寄）などがご利用頂く事が多く、若い人は来ない。コロナでお年寄等が外に出ず、マスク生活で化粧しなくなった事により、売上が大幅に下がって来ています。コロナが長引くほど今後の見通しは暗いです。」
「業務店の売上が、ほとんど無い状態だが、一般のお客様が家飲みが増えていると思われる。店売上が少し増加傾向にある。」
「新型コロナの関係で、少し仕事が出て来たので良かったのですが、今後はどうなるか不安です。」
「コロナの影響は覚悟していた以上に厳しく、先の見えない不安が絶えずあります。」
「茶会、結婚式、七五三、成人式、概ね少ないです。お茶や着付けの稽古の人で何とかやっています。」
「酒類の販売は全くダメ。ビール類に関しては、ほとんど利益なしで売っても売れ残り、電気代も出ない状態。」
「ゴルフ業界はコロナの規制にならず、ゴルファーが増えています。松山プロがマスターズに勝ち、ゴルフ熱は高まっていますが、コロナ不況にならないことを期待しております。」
「どん底だった昨年4～6月に比べると、平年並み。やや良くなってきた面もありますが、助成金のお陰や需要の前倒しの為、半年後以降は悪くなる可能性高いです。」
「昨年、今年と全ての展示会出展を見合わせているので、売上は減少。YouTubeに力を入れていることもあり、客単価は低いものの新規のお客が増えている。」
「半導体の不足によりカーナビゲーションの供給不足が続いている。今後の見通しもたえない状況。」
「食品等を扱っているのですが、何とかなっているが、業務用で良いニュースがない。」
「緊急事態宣言により、昨年より今年のほうがひどい。人手減少により客数、客単価も減少。仕入先が休業日が多くなり、注文が難しい。前回のように国の補償が欲しいです。」
「コロナの影響により会社から個人への需要が変動したが、ひと段落した感じがする。これにより、売上の減少になると思う。」
「9月末からの中学校給食が経営にどう反映されるか心配である。現在のパン注文がなくなり、そのカバーをしてくれるのか。コロナウイルスがこれ以上拡がらず、学校が今までと同じように続く事が最大の願い。」

<飲食店>

「オリンピックをやる事で、その後良くなると思う。」
「コロナの影響で、今後の見通しが全く立たない。特に時短営業で酒類の提供が停止になると、客足が全くなくなる。せめて夜7時～7時30分位まで酒類が提供できないと飲食店はダメになる。」
「店舗投資については、コロナ対策として、CO2対策で換気工事をするか考えています。お客様はコロナ対策について敏感になっています。」
「オリンピック開催次第で、状況が大きく変わってきます。」
「酒類の提供停止に伴い、飲酒される常連客の来店がほぼなしに。店内飲酒が出来ない分、出前が増した感じがする。」
「団体客（バス旅行等）の中止で、全体に売上は落ちたが、社員バイトの残業代が減り、利益は出た。」
「ワクチンの開発、投与が進んでいないので、10月くらいにすこしずつ良くなるかと。」
「外出される方が増えているが、客数が増えない。また、感染症対策費用が利益圧迫。ワクチン次第で、売上の増減が決まる。」

<サービス業>

「整備士不足。その一言に尽きます。コロナの影響はそれほどありません。」
「現状では、業績好調である。年内に終息する見込みが立てば、来年度は回復すると思う。しかし1年以上続けば、全ての業種で影響を受けるであろう。」
「来店サイクルが長くなってきている。その上、客単価も下がっているのが非常に厳しい。」
「安心して外出できるようになるまでは宿泊、飲食の不調は続くと思われます。」
「コロナ禍が収まっても、庶民の動向は元には戻らないと思う。サラリーマンの勤務が変化（テレワーク）してしまった。旅行など遊びに行く普通の生活が戻らない限り、客数、客単価の上昇は望めない。」
「経営状況は前期よりは悪いが、シーズン性のある業種の為、前年同月比は良くなっている。問題は無い。業況としては、さすがにコロナの影響が出て来るとい、先行き不安です。」
「3か月、6か月先の先行きが、見通しが立たない。」
「コロナ禍の中では、比較的マイナス影響の少ない業種（自動車の整備）と思われる。訪問での営業活動や集客イベント開催は制限されるが、その他は平時の活動を行う。」
「賃貸業の動きはありますが、売上が不調です。材料などが高くなっています。」
「個人客への営業方向を変えた。結果が好転した。」